

風土記の丘の花だより²²⁰

今、そしてこれから見られる植物(2024年1月27日)

毎年、今ごろ強い寒波がやってきて、和歌山にも雪を降らせます。もうすぐ節分ですから、寒くて当たり前ですね。前の花だより(219号)で紹介したヤドリギに23日、今季初めて冬の鳥ヒレンジャクがやってきました。実をついばんで、種をあちこちに運んでくれることでしょうか。



さて、前回でも白梅を紹介しましたが、今回の白梅は、花の萼(がく)が緑色の「リョクガク」という品種です。前回紹介した白梅の萼は紫色っぽかったですね。修復古墳の西にある梅園の白梅のほとんどがこのリョクガクです。ウメは、中国南部が原産とされ、日本に伝来してからは、人々に好まれ、多くの品種が作られました。詳しい品種名は造園家や愛好家の方しか分からないくらいに多種多様です。私はこのリョクガクとう名前も人に教えていただいたので知っているだけです。



このきれいなコバルトブルーの実実はジャノヒゲの実です。別名をリュウノヒゲと言いますが、ジャ(蛇)にヒゲはないので、龍の方がふさわしいかも知れませんね。よく似たヤブランには長い花茎があり、実もよく目立ちますが、ジャノヒゲの場合は細長い葉に隠れて、株元にできるので、歩いているだけでは気づきません。それで立ち止まって、葉をかき分けて探さないと見ることはできません。是非、珠のような実を探してみてください。



ウメを見た帰り、少し階段を上ったところで「あれ？」と思い立ち止まりました。なんと、今頃コマユミの花が咲いているのです。ふつうは初夏に咲くのですが、去年も今の時期に咲いていたように覚えています。私たちには分からない何か理由があるのでしょうか。枝に板状のものが付くのが特徴のニシキギという木がありますが、それが無いニシキギをコマユミというそうです。「小さなマユミ」という名前だけあって、花は確かにマユミとよく似ています。でも実は全く似ていませんよ。



最後はシダです。ミツデウラボシといいます。名前は「三つ手」ですが、写真ではわかりにくいですが、小さな葉では卵形になるなど、3つに分かれないものもたくさんあります。「裏星」は葉の裏にある孢子嚢(ほうしのう)を星に見立てたものです。身近なシダでいうと、ノキシノブやマメヅタなどと同じウラボシ科の仲間です。乾いた斜面や石垣などに見られ、小早川家の南の石垣にも少し生えています。これは違う場所で撮影したものです。 松下